

第2次大戦後の世界秩序が変わる時

PUTIN'S GAMBIT

2022年3月4日（金）16時15分

マイケル・ハーシュ（フォーリン・ポリシー誌上級特派員）



「Z」マークが描かれた戦車に乗る親ロシア派軍の戦闘員（ウクライナ東部の親ロシア派地域、3月1日） Alexander Ermochenko-REUTERS

<フセインのクウェート侵攻やユーゴスラビアで起こったジェノサイドとも、今回のウクライナ危機は異なる。戦後に構築された平和維持と経済発展のシステムが今、巨大な壁に直面している>

ロシアによるウクライナ全面侵攻は、世界の民主主義陣営に、77年前のナチスドイツ降伏以来で最大の試練をもたらしている。

むしろ序盤戦に関しては、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領の揺さぶりは、ヒトラーのそれよりも大きいと言えるかもしれない。

なにしろ現在のロシアは核を保有しており、欧米諸国の対応次第では、それを使うことも辞さないと言っているのだ。

「たったいまプーチンは、ウクライナを支援するなら、核兵器を使用すると警告してきた。これでポスト冷戦時代のシステムは事実上終焉した」と、米ブルッキングス研究所のコンスタンツェ・シュテルツェンミュラー上級研究員は語る。

「今回のウクライナへの攻撃は、民主主義陣営全体に対する攻撃であることを理解する必要がある」

第2次大戦後、アメリカと同盟国は、再び悲惨な世界大戦が起こることを防ぐために平和維持と経済発展のシステムを構築してきた。それは冷戦時代を含めて過去80年近くにわたり、かなりうまく機能してきた。

ところが今、そのシステムは巨大な壁に直面している。

その一因は、国連安全保障理事会の常任理事国であるロシアが拒否権を発動すれば、国際連合はたちまち国際連盟のように無力な存在になってしまうことにある。ヒトラーと、イタリアの独裁者ムソリーニは1930年代、国際連盟をコケにして世界の舞台で傍若無人を働いた。

今回のウクライナ侵攻について、主要国は例外なく、なんらかの立場を明らかにすることを強いられるだろう。これまでロシアの近隣諸国への侵攻に曖昧な態度を取ってきた中国やインドも例外ではない。

一方、ドイツなどのヨーロッパ諸国は、重要インフラ、とりわけエネルギー供給において、ロシアへの依存を真剣に見直すべきだ。

妄想を理由に侵攻を正当化

プーチンが今やっていることと比べれば、第2次大戦後に起きた国際問題は比較的マイナーなものだったとさえ感じられる。

1956年のハンガリー動乱や1968年の「プラハの春」をソ連が弾圧したときは、冷戦のピーク時だったせいもあり、アメリカは共産圏内の出来事に首を突っ込むことに及び腰だった。

一方、90年代になって、イラクの独裁者サダム・フセインがクウェートに侵攻したときや、ユーゴスラビアの独裁者スロボダン・ミロシェビッチがボスニアとコソボのイスラム教徒にジェノサイド（集団虐殺）を働いたときは、アメリカのリーダーシップで、すぐに首謀者を国際的に孤立させることができた。

次のページ ヒトラーとプーチンのもう1つの類似点

1

2

3

[次のページ](#)

第2次大戦後の世界秩序が変わる時

PUTIN'S GAMBIT

2022年3月4日（金）16時15分

マイケル・ハーシュ（フォーリン・ポリシー誌上級特派員）

これらの危機はどれも悲惨だったが、特定の地域と時期に限定されていた。だが今回の危機は、はるかに広範に及ぶ恐れがある。

「武力で他国の領土を奪わないという第2次大戦後の不文律がゆがめられたことは過去にもある。だが今回は完全に破られたようだ」と、クリントン政権で国防次官補（国際安全保障担当）を務めたジョセフ・ナイは語る。

1930年代のヒトラーとプーチンのもう1つの類似点は、虚実の交ざった妄想を理由に行動を起こしていることだ。

ヒトラーは、ベルサイユ条約という「不平等条約」を覆して、ドイツ語圏を併合するとして、非武装地帯ラインラントへの進駐やオーストリア併合を正当化した。

プーチンも、ウクライナやジョージアなど旧ソ連圏諸国のロシア系住民の希望に応えるためだとか、NATOの東方（つまり旧ソ連圏）拡大が不当だとして、侵攻を正当化してきた。2月21日のテレビ演説では、「ウクライナは隣国であるだけでなく、われわれの歴史と文化と精神の不可分の一部だ」と強弁した。

サイバー攻撃能力の脅威

ロシア帝国の偉大さを取り戻すという、個人的な野望を実現する機が熟したという判断もあったようだ。

2014年にウクライナ領クリミア半島を併合し、さらに東部ドンバス地方の一部を実効支配下に置いて以来、ロシアは制裁を受けてきたが、これなら耐えられるとプーチンは判断したのだろう。

同時に、今やらなければ、ウクライナはNATO加盟を果たしてしまうという焦りも、プーチンにはあったようだ。そうなってからウクライナを攻撃すれば、NATOの基礎となる北大西洋条約第5条（集団的自衛権）に基づき、ロシアはNATOの反撃を受けることになる。

中国などと比べると、ロシアはさほど世界経済に深く組み込まれているわけではない（もちろんエネルギーは例外だが）。

故ジョン・マケイン米上院議員は生前、ロシアは「国家の仮面をかぶったガソリンスタンドだ」と揶揄したものだ。

世界経済から比較的孤立しているということは、「（欧米諸国には）ロシアに影響を与える手段があまりない」ことを意味すると、ジェームズ・スタインバーグ元米大統領副補佐官（国家安全保障担当）は指摘する。

「みんな石油と天然ガスが必要だから、いずれ（ロシアの暴挙を）受け入れるようになるだろうとプーチンは計算しているのだ」

[次のページ](#) **民主主義陣営に希望がないわけではない**

[前のページ](#)

1

2

3

[次のページ](#)

第2次大戦後の世界秩序が変わる時

PUTIN'S GAMBIT

2022年3月4日（金）16時15分

マイケル・ハーシュ（フォーリン・ポリシー誌上級特派員）

それにロシアは、核の抑止力だけでなく、強力なサイバー攻撃能力を構築してきた。

CNNによると、米国土安全保障省は1月23日の報告書で、ウクライナ侵攻に対するアメリカまたはNATOの措置が、ロシアの「長期的な国家安全保障」を脅かすと見なした場合、ロシアは米本土に大規模なサイバー攻撃を仕掛ける可能性があるとは指摘している。

民主主義陣営に希望がないわけではない。

近年、多くの国でナショナリスト感情が高まり、国際協調の機運は衰えてきたが、ロシアのウクライナ侵攻は、民主主義陣営が結束の必要性を実感するきっかけになるかもしれない。ジョー・バイデン米大統領はそれを自らの大きな目標の1つにしてきた。

バイデンは2月24日のスピーチで、ロシアの指導部と企業と銀行に対して厳しい制裁を科すことによって、その軍事力と経済力を衰えさせるアメリカとNATOの計画を明らかにした。また、プーチンのウクライナ侵攻は「世界平和の基本理念に対する攻撃」だと非難した。

今後の展開は、いったい何を考えているのか分からない男の行動に左右されることになる。

しばらく前から、プーチンは合理的な判断ができなくなっているのではとも言われてきた。だが、そんな男が、民主主義陣営と世界秩序を過去に例がないほど追い詰めているのは間違いはない。

ロシアのウクライナ侵攻は、「第2次大戦後に構築された世界秩序の限界を知らしめた」というスタインバーグの言葉が身に染みる。

From [Foreign Policy Magazine](#)

【話題の記事】

[ロシア軍「衝撃の弱さ」と核使用の恐怖——戦略の練り直しを迫られるアメリカ](#)
[アメリカはウクライナ軍事支援を検討中](#)

※画像をクリックするとアマゾンに飛びます

2022年3月15日号（3月8日発売）は「**ウクライナ侵攻
プーチンの戦争**」特集。「不敗の帝王」プーチンが苦
戦中？ ウクライナ戦争の勝算と誤算／ルポ・最前線の
街ハリコフ

[前のページ](#)

[1](#)

[2](#)

[3](#)